

# 菌類

菌類は国内で 5000 を越える種があると考えられていて、多くの種名の付けられていないものがある。菌類は庭、畑、山林などいたるところに発生する。地中に植物と共生する菌根菌や、木などの有機質を分解しながら発生する腐朽菌などがある。発生は天候に左右され、時期や発生量に大きく影響する。調査では市民の森での確認種が多く、8～10月にかけて多く見られた。キノコには美味で食用になる種や、非常に危険な毒をもつものがあり、食する場合は細心の注意が必要である。自分も図鑑を片手にキノコを採って判断するが、多くの種が判断できずに残る。種判定は自分にはとても難しい。しかし、キノコ類は、食用にするだけでなく、スケッチや写真を撮るような楽しみ方もある。キノコは形や色が多様で、美しい種も多い。市民の森などでは遊歩道が完備されているので、発生時期にはとても楽しめる。なお、ここでの分類は 1994 年の旧分類に従っていて、最新のものではない。

調査での出現種				調査での出現種			
群No	分類	科名	種名	群No	分類	科名	種名
1			アイゾメクロイグチ	27			ミドリニガイグチ
2			アシナガイグチ	28	イグチ科		ムラサキヤマドリタケ
3			アシベニイグチ	29			ヤマイグチ
4			アミイグチ	30			ヤマドリタケモドキ
5			アヤマイグチ?	31	イッポンシメジ科		イッポンシメジ科 sp
6			イグチ科 sp	32			ウラベニホテイシメジ
7			イロガワリ	33			キイボカサタケ
8			ウラクロニガイグチ	34			クサウラベニタケ
9			オオヤシャイグチ?	35			ミノモミウラモドキ
10			オクヤマニガイグチ	36	イボタケ科		イボタケ
11			オニイグチ	37			イボラシャタケ
12	ハラタケ類	イグチ科	キアミアシイグチ	38	ハラタケ類	オキナタケ科	コガサタケ
13			キイロイグチ	39			ツチナメコ
14			キクバナイグチ	40			フミツキタケ
15			キッコウアワタケ	41			ヤナギマツタケ
16			クロアザアワタケ	42	キシメジ科	アカチシオタケ?	
17			クロニガイグチ	43		アシナガタケ	
18			コゲチャイロガワリ	44		ウスキモミウラモドキ	
19			コビチャニガイグチ	45		オオホウライタケ	
20			チチアワタケ	46		オチバタケの仲間	
21			ニガイグチ	47		カレバキツネタケ	
22	ニガイグチモドキ	48	キシメジ科 sp				
23	ヌメリイグチ	49	キツネタケ				
24	ブドウイロニガイグチ	50	クヌギタケ属 sp				
25			ベニイグチ	51			コムラサキシメジ
26			ホオベニシロアシイグチ	52			サカズキホウライタケ

調査での出現種			
群No	分類	科名	種名
53			サクラタケ
54			シロホウライタケ
55			ダイダイガサ
56			ツエタケ
57			ツエタケの仲間？
58		キシメジ科	ナラタケモドキ
59			ハナオチバタケ
60			ヒナノカサ
61			ヒメムキタケ
62			ヒロヒダタケ
63			ムラサキシメジ
64			モリノカレバタケ
65		スエヒロタケ科	スエヒロタケ
66			カバイロツルタケ
67			キリンタケ
68			コガネテングタケ
69			コテングタケモドキ
70			コトヒラテングタケ
71			ササクレシロオニタケ
72			シロオニタケの仲間
73			タマゴタケ
74		テングタケ科	タマゴテングタケの仲間
75			タマゴテングタケモドキ
76			ツルタケダマシ
77			テングタケ
78			テングタケ科 sp
79			ドウシントケ
80			ドクツルタケ
81			フクロツルタケ
82			ヘビキノコモドキ sp
83		ヌメリガサ科	アカヤマタケ
84			トガリベニヤマタケ
85			オオシロカラカサタケ
86			オニタケ
87			キツネノハナガサ
88			シロヒメカラカサタケ
89		ハラタケ科	ツクリタケ
90			ナカグロモリノカサ
91			ハラタケ
92			ハラタケ科 sp
93			マントカラカサタケ
94			イタチタケ
95			イヌセンボンタケ
96		ヒトヨタケ科	コツブヒメヒガサヒトヨタケ
97			ザラエノヒトヨタケ
98			ヒトヨタケ科 sp
99		ヒラタケ科	アラゲカワキタケ
100		フウセンタケ科	キヌハダトマヤタケ

調査での出現種			
群No	分類	科名	種名
101			コツブチャツムタケ
102		フウセンタケ科	ササクレキヌハダトマヤタケ
103			ササタケの仲間
104			ウコンハツ
105			オキナクサハツの仲間
106			カワリハツ
107			クサハツ
108			クロチチダマシ
109			クロハツ？
110			クロハツモドキ
111		ベニタケ科	シロハツ
112			シロハツモドキ
113			チョウジタケ
114			ツギハギハツ
115			ドクベニタケ
116			ヒビワレシロハツ
117			ベニタケ科 sp
118			ムラサキハツ
119			ヤブレベニタケ
120		ミミナミハタケ科	イタチナミハタケの仲間
121			サケツバタケの仲間
122			シロナメツムタケ
123		モエギタケ科	ツチスギタケの仲間
124			ヌメリスギタケ
125			ヒメカバイロタケ
126			モエギタケ
1			アンズタケ
2		アンズタケ科	ヒナアンズタケの仲間
3			ベニウスタケ
4		ウロコタケ科	カミウロコタケ？
5		カレエダタケ科	カレエダタケモドキ
6			オオシワタケ
7		コウヤクタケ科	ミナミコメバタケ
8			アオゾメタケ
9			アミスギタケ
10			アラゲカワラタケ
11			ウチワタケ
12			ウチワタケモドキ
13			オオミノコフキタケ
14			エゴノキタケ
15		サルノコシカケ科	カイガラタケ
16			カイメンタケ
17			カワラタケ
18			クジラタケ
19			サルノコシカケ科 sp
20			シロカイメンタケ
21			スルメタケ
22			タマチヨレイタケ

調査での出現種					
群No	分類	科名	種名		
23	ヒダナシタケ類	サルノコシカケ科	チャカイガラタケ		
24			ツヤウチワタケ		
25			トンビマイタケ		
26			ハカワラタケ		
27			ヒイロタケ		
28			ベッコウタケ		
29			ホウネンタケ		
30			ホウロクタケ		
31			ヤキフタケ		
32			シロウメンタケ科	シロヒメホウキタケ?	
33			タバウロコタケ科	キヌハダタケ?	
34			ラッパタケ科	ウスタケ	
35				ラッパタケ科 sp	
1			腹菌類	ホコリタケ科	オニフスベ
2					ノウタケ

調査での出現種				
群No	分類	科名	種名	
3	腹菌類	ホコリタケ科	ホコリタケ	
4			ホコリタケ科 sp	
5		アカカゴタケ科	ツマミタケの仲間	
6		ヒメツチグリ科	エリマキツチガキ	
7			コフクロツチガキ	
8			ヒメツチグリ科 sp	
1		変形菌	ハシラホコリ科	マメホコリ
2			ムラサキホコリタケ科	サビホコリ
3	ムラサキホコリ			
1	キクラゲ類	キクラゲ科	アラゲキクラゲ	
2			キクラゲ	
3		シロキクラゲ科	ニカワツノタケ	
1	子囊菌類	クロサイワタケ科	クロコブタケ	



ナラタケモドキ

#### キシメジ科 ナラタケモドキ

広葉樹の切り株などの枯れ木や生木に発生する。多くのキノコが叢生して20cm くらいの株になる。ナラタケと共に食用にされる。



ハナオチバタケ

#### キシメジ科 ハナオチバタケ

広葉樹林の地上に発生する。取り上げてみると枯れた落ち葉などの植物に根を張っている。6 cm 程度の小型のキノコでつい見過ごしてしまうが、美しい。

#### テングタケ科

テングタケ科のキノコは猛毒を持っている種が多い。キノコは大型で林内ではよく目立ち立派な姿をしている。丸い笠と、笠の裏側にはひだがあり、柄にはつばあり、地上部には袋状のつぼがあるのが特徴である。

### テングタケ科 コテングタケモドキ

市内の林地には普通に見られる。毒のあるキノコで、見るからに美味しそうではない。笠は 10cm 以上になり、見事であり、この付近の丘陵地では代表的な種である。



コテングタケモドキ（左）と断面（右）

### テングタケ科 コトヒラテングタケ

猛毒のドクツルタケによく似ている。キノコの先生にコトヒラテングタケと教えていただいた。図鑑ではドクツルタケは中型から大型とあるが、市内で発生しているこのキノコは小型から中型までの大きさである。真っ白いキノコで林内では目立ち、数も多く、群生する。



コトヒラテングタケ

### テングタケ科 ササクレシロオニタケ

笠の上に、いぼ状のとげがあり、大きいものは 15cm くらいに開く。林内でよく目立ち、見事である。図鑑によれば食毒不明であるが、近縁で良く似た種では毒があり、本種も怪しい。間違えても毒味はしないほうがいだろう。



ササクレシロオニタケ

### テングタケ科 シロタマゴテングタケ？

大型で白いキノコで、秋に林内ではよく目立ち、よく見かける。きれいだが、猛毒がある。



シロタマゴテングタケ



タマゴタケ



タマゴタケ幼菌



オオシロカラカサタケ



キツネノハナガサ

### テングタケ科 タマゴタケ

テングタケの仲間の中で安心して食べることのできるキノコである。笠は赤く、柄は黄色、つばは白色、見るからに毒々しいが、ヨーロッパでは皇帝のキノコと呼ばれ、美味とされている。食べてみたが、とりたてて美味しいとは感じなかった。くせのないキノコではある。しかし、林内でこのキノコに出会うのはうれしい。発生は8～9月ころが多く、暑い盛りなので林地に入るのがためられ、林縁にあるのを見つけるとつい写真を撮りたくなる。

### ハラタケ科 オオシロカラカサタケ

カラカサタケ類のうち、カラカサタケは食用だが、カラカサタケによく似た他の種は毒がある。このオオシロカラカサタケも毒キノコで、食することはできない。テレビ番組でカラカサタケを採集して食用とする放送をしていた。正しい放送であり、プロが指南していた。間違いはないのだが、あまり知識のない一般の人が食するのは危険である。

### ハラタケ科 キツネノハナガサ

林内に発生する小さなキノコで、笠は3cmくらい、丈は10cmくらいになる。笠の表面は黄色で中央が写真のように色が濃い。単独で発生して地上の花のようである。



### ハラタケ科 ナカグロモリノカサ

笠が10cmくらいになる中型のキノコで、雑木林の地上に単独あるいは群生する。ちょっと旨そうなのだが、これは有毒。



ナカグロモリノカサ

### ハラタケ科 オニタケ

夏から秋にかけて林内に発生する中型のキノコで食用とされる。



オニタケ

### ヒトヨタケ科 コキラタケ?

落葉樹の倒木に発生していた。3cmくらいの小さなキノコであった。図鑑と首っ引きで見てみたが、本当に名前は合っているのだろうか?こんなに可憐なのに!



コキラタケ

### フウセンタケ科 チャツムタケ

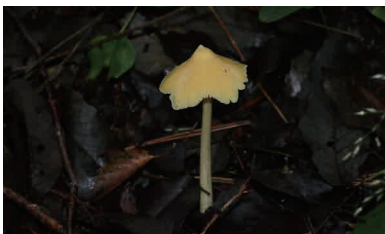
倒木に叢生していたが、小さなキノコで、傘の裏はひだがある。あまり旨そうにも見えない。種名が当たっていれば、食毒不明。苦味があるという。キノコの研究者は味見をしたようだ。



チャツムタケ

### イッポンシメジ科 キイボカサタケ

10cm程度の丈で、全体が黄色、傘は円錐形で頂端に突起があり、折れやすい。図鑑では毒キノコとなっている。その後に毒?とあったが、図鑑の執筆者も食べるのを躊躇ったのだろう。キノコの毒は致命的となる場合もある。



キイボカサタケ



クサウラベニタケ



ウラベニホテイシメジ

**イッボンシメジ科** クサウラベニタケ(上)  
ウラベニホテイシメジ(下)

ウラベニホテイシメジはイッボンと呼ばれる、少し苦味のあるキノコで美味である。クサウラベニタケは食用のウラベニホテイシメジと間違われて食される、地元で一番中毒の多いキノコである。両者は同じ場所に発生して、クサウラベニタケは個体数も多く、よく見かける。クサウラベニタケの中毒は、死亡することはないが、食後1時間程度で嘔吐と下痢が始まり、数日は苦しむ。自分は食べたことはないが、中毒する人が多いので、食べている時は美味しいのかもしれない。

**イグチ科**

この科のキノコは丸い笠の下面はひだではなく、管孔になっている。多くの種が8～9月の頃に発生する。図鑑によれば有毒な種もあるが、食べられる種も多くある。小型のものから大型のキノコまで、色も多様で、群生することも多く、見事である。



オクヤマニガイグチ



**イグチ科** オクヤマニガイグチ

夏から秋にコナラ林などの地上に発生する。傘の径は10cm以上にもなる。肉は苦いとあり、食毒不明。

### イグチ科 キアマアシイグチ

夏から秋に広葉樹のある地上に発生する。柄には網目があり、キノコは苦味があるという。食毒不明。



キアマアシイグチ

### イグチ科 コオニイグチ

マツや広葉樹などの混交林に発生する。傘の表面はささくれた鱗片を持っている。食用になるともあるが、食べないほうが無難だろう。



コオニイグチ



ベニイグチ



ミドリニガイグチ



ムラサキヤマドリタケ





## ベニタケ科

小型から大型まである分類群で、食用のキノコも多い。笠の表面が赤いドクベニタケなど林内では目立つ種から地味な種、乳液のような液を分泌する種もあり、馴染みがある。



ドクベニタケ



ツギハギハツ



カワリハツ



ハツタケ

### ベニタケ科 ドクベニタケ

秋に林内の地上に発生する。傘の表面は赤く目立つ。柄は白色で、肉は柔らかく、強い辛味があるという。ベニタケの仲間は同定が難しく、この写真、同じ科のチシオハツにも見える。ドクベニタケは有毒、チシオハツであれば食毒不明。

### ベニタケ科 ツギハギハツ・カワリハツ

このベニタケの仲間、ツギハギハツは食毒不明、カワリハツは食べられると図鑑にはある。しかし、これらのキノコを採集しても食欲が湧かない。キノコが好きで、よく知っているものであれば、食べてもいいが、用心深く対応するのも、中毒をしないコツ。自分はまだ一度も野生のキノコで中毒したことがない。

### ベニタケ科 ハツタケ

アカマツの若い樹齢の樹のある、日当たりの好いススキなどがある樹林の地上に、10月の初旬に発生する。以前は市内でアカマツの林地が多くあり、上唐子の飛行場跡の平地林には多数発生した。アカマツは1980年代に大規

模に枯れ始め、今では松山の名前が霞むくらい、アカマツの樹が減り、同時にこのキノコも姿を消してしまった。うまみのある美味しいキノコであるが、キノコ自体はボソボソしていて食感はあまりよくない。傷つくと青変（緑青色）する。

### ヒダナシタケ類 シロソウメンタケ科 sp

この写真のキノコのように枝分かれしている種は、シロソウメンタケ科やフサヒメホウキタケ科、ホウキタケ科などに分かれている。このキノコ小さく貧弱だが、ホウキタケ科にはホウキタケ（通称ネズミキノコ）という美味しい食菌がある。しかし、20年以上市内の山林で見たことは無い。



シロソウメンタケ科 sp

### サルノコシカケ科 ツヤウチワタケ

これらのサルノコシカケ科の菌はコルク質で硬い。ほとんどキノコが倒木や枯木から発生している。よく見かけるのだが、食用にならないので、すぐに見過ごされる。しかし、よく見ると、どれも艶やかで美しい。



ツヤウチワタケ



カワラタケ



ヒイロタケ



### ツチグリ科 エリマキツチグリ？

ツチグリ、ツチガキ、ホコリタケなどを含む仲間、秋、地上に発生する。この腹筋類には個性的なキノコが多く、キヌガサタケやスッポンタケ、キツネノロウソクなど魅力的な面々が揃っている。まずは探して鑑賞してみよう。



### ホコリタケ科 ノウタケ・ホコリタケ

このホコリタケの仲間は、ノウタケは直径10cmくらいまで大きくなり、ホコリタケは3cmくらいで小さい。幼菌の内部は白いスポンジ状で食べられるが、小さいホコリタケの仲間は食毒不明のものもあり、注意が必要。成熟すると内部は茶褐色になり、胞子が飛散する。



### キクラゲ科 アラゲキクラゲ

枯木に発生する。群生し大きいものでは5cmくらいになる。普通に見られる種で、庭の枯木にも出てくることもある。食べてみたが、結構いける。



### ムラサキホコリ科 ムラサキホコリ

変形菌の粘菌アメーバは、植物を腐らせる細菌やカビを食べ、大きなアメーバ、変形体になる。暗く湿った場所で餌を探し這い回る。子実体を作るときには時速数cmも動くという。そして枯木などの表面に写真の如く現れる。恐ろしい得体の知れない動物を連想してしまう。だが、意外に見栄えがいい。

